

平成21年度 【 大学振興会研究奨励補助 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ツツキ ジュンコ  
氏名 續 順子

研究期間 平成21年度

研究課題名 食育の視点からみたコンビニ弁当販売の現状と評価

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	續 順子	生活科学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

食育基本法の制定、特定保健検診制度の展開などの健康志向ニーズの高まりに応じて、コンビニエンスストアで販売される弁当類にも健康志向を掲げたものが増加したが、昨年来の不況下、価格低減の圧力に押されて、必ずしも所期の目的を満たすものではなくなっている危惧がある。その現状を把握することを主たる目的とした。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

名古屋市内での各コンビニ系列における弁当類販売の現状を調査するとともに、栄養価、特に生活習慣病予防の観点から注目されるn-6, n-3系脂肪酸の含量分析も含めてその分析・評価を行った。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

名古屋市内（中区、千種区、名東区）の6系列のコンビニ店において、2009年4月～9月の間に店頭販売されていた弁当計24種を購入し、五訂増補食品成分表に基づいて栄養価を、五訂増補日本食品標準成分表脂肪酸成分表に基づいて脂肪酸組成を算出するとともに、各々の塩分量についても測定を行った。

コンビニ弁当の販売は一時期高価格帯商品の投入が見られたものの、前年度からの金融縮小を受けて、次第に低価格商品を中心とした商品展開へのシフトが観察された。低価格帯弁当では、揚げ物や肉料理を中心とした数種類のおかずが盛り込まれた重量感があるものが多く見られた。こうした動向の中で、健康志向弁当の多くは、やや高額な部類に属するものが主体であった。これらの健康志向弁当について、その栄養価および脂肪酸量分析結果に基づいて、各々を五段階で評価し、過去2年間の成績と合せてその年度別展開状況を検討したところ、健康志向弁当の調査を始めた2007年は各社の製品にバラツキが多く、評価出来ない商品群も見られたが、翌2008年には健康志向性において評価すべきものが増加して、健康志向弁当の定着が期待されたものの、今回調査期間中では、評価が中位から下位のものに集中する傾向が認められ、塩分量の増加した系列も見られた。これらの調査により、健康志向弁当がある程度の経済的余力を背景に展開されていたものと判断された。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①健康志向	②コンビニ弁当	③脂肪酸組成	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今回の調査で、健康志向弁当が経済縮小に伴って質から量への後戻りとも言える状況に立ち至っていることが示唆されたが、こうした困難に抗して価格高騰を招かずに健康志向を実現する素材や調理法の開発努力に繋げて行く途を検討・発信して行く。